

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの利用状況と 情報発信のあり方に関する検討

研究分担者：盛一 享徳（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室 室長）

研究協力者：白井 夕映（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

研究要旨

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）は、厚生労働省小児慢性特定疾病情報管理事業により、2015（平成27）年1月から本格運用が開始され、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善に資する情報の一元化を図り、疾患概要や診断の手引きのほか、各種相談窓口・支援団体等に関し、掲載情報を随時更新・拡充するとともに、問い合わせフォームを通じ関係各所からの問い合わせ対応を行っている。

過去3年間のアクセス数は約450万件/年であり、1日当たりおよそ1万2千件の悪世宇があった。アクセス端末はスマートデバイスから7割を超えており、患者やその家族、医療従事者、行政関係者など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察された。

今後も引き続き、情報をより充実させ、多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

A. 研究目的

小児慢性特定疾病情報管理事業にて運営している「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルサイトの利用状況を分析することを目的とした。

B. 研究方法

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）についてGoogle LLCが提供しているアクセス解析サービスGoogle Analyticsを用いて解析を行った。2019（令和元年）年4月1日から2022（令和4）年3月31日までの期間について、解

析を行った。同様にウェブサイトの問合せフォームに寄せられた問い合わせについて内容を検討した。

（倫理面の配慮）

本研究は個人を特定しないデータを用いて実施しており、特別な倫理的配慮は必要ないものと判断した。

C. 研究結果

時間軸からみたアクセス数

2019年4月1日から2022年3月31日の3年間における総アクセス数（セッション数）は延べ13,554,617件であり、総ページビュー数は

延べ 22,504,248 件あった。3 年間の平均は、総アクセス数は約 450 万件/年、総ページビュー数は約 750 万件/年であった（図 1）。

時間帯別アクセス数は、全体でみると日中 14～16 時と夜 21～22 時をピークとする二峰性の分布を示していた。日中はデスクトップ端末からのアクセスが約 4 割を占めるが、夜間のアクセスの 8 割はスマートデバイス端末からのアクセスであった（図 2）。

D. 端末（デバイス）種別アクセス数

2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日の 3 年間ににおける利用端末は、スマートデバイスからのアクセスが全体の 72%であり、またすべての時間帯において最も多く利用されるデバイスであった。

E. ページ閲覧の特徴

全アクセスのうち、トップページ経由でのアクセスは非常に少なく、全体の 9 割以上が検索エンジンから疾患概要や診断の手引きのページへ直接アクセスしていた。

F. ウェブ問い合わせ件数

2019 年度の問い合わせ件数は 450 件、2020 年度の問い合わせ件数は 323 件、2021 年度の問い合わせ件数は 361 件であり、ほぼ横ばいであった。

G. D. 考察

過去 3 年間のアクセス数は毎年 450 万件程度であった。デスクトップ端末からのアクセスは日中の勤務時間帯を中心としており、主に業務目的での閲覧が中心であると推察された。一方、モバイル端末からのアクセスは一日を通じて行われており、とくに夜間のアクセスピークである 21 時前後の時間帯は、モバイル端末からのアクセスが全体の 8 割を超え、この時間帯の主たる閲覧者は一般国民である可能性が高いと考えられた。

スマートデバイスからのアクセスが全体の 7 割を占め、またすべての時間帯において最も

多く利用されるデバイスであり、現在のウェブサイトはスマートデバイスの閲覧に対応しているが、今後もこの傾向が続くと考えられ、コンテンツの構成において利用端末がスマートデバイスであることを念頭に置く必要があると考えられた。

ほとんどのアクセスは、トップページを経由せず、直接サイト内の疾患ページへアクセスしていたことから、現在お知らせ等はトップページに集中させているため、ウェブサイトの見せ方を再検討する余地があると思われた。

3 年間のウェブサイト経由の問い合わせは、患者・家族等の一般国民からの問合せが半数近くとなり、一般国民に対する窓口として働いていると考えられた。

H. E. 結論

本ウェブサイトは、医療従事者、行政事務従事者、患者やその家族など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察され、小児慢性特定疾病に関する情報発信手段として有効に活用されていると思われた。いずれの端末からもアクセス数は横ばいであり、本ウェブサイトが発信する情報はそれらを必要としている国民に概ね行きわたったと考えられる。

今後も更なる視認性の向上や分かり易い情報提供を心掛け、引き続きより多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

I. F. 研究発表

論文発表/学会発表
なし/なし

J. G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

特許取得/実用新案登録/その他
なし/なし/なし

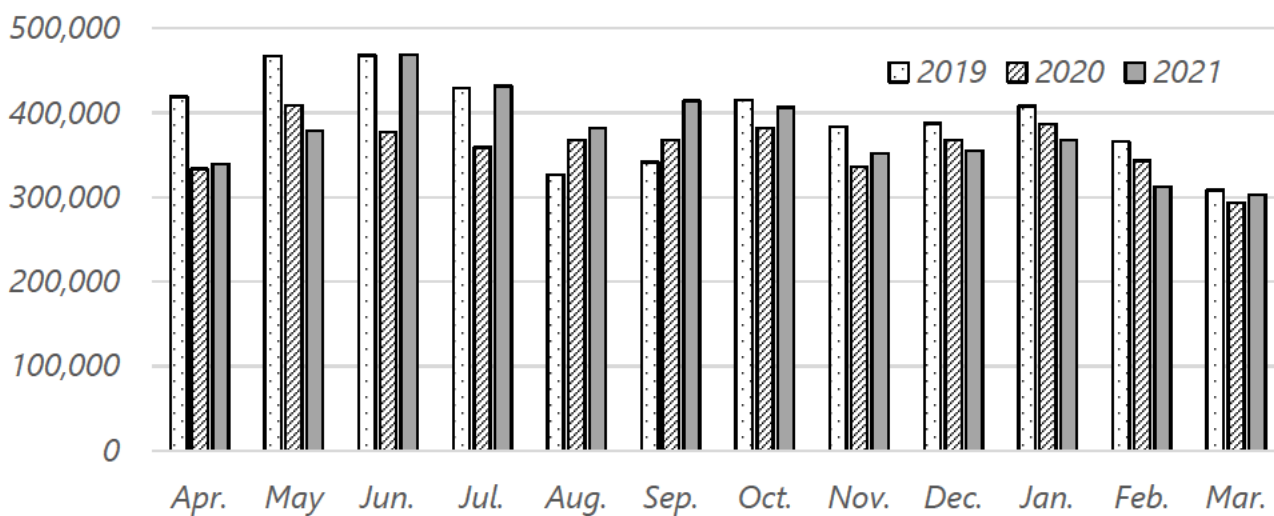


図 1. 2019～2021 年度のアクセス数

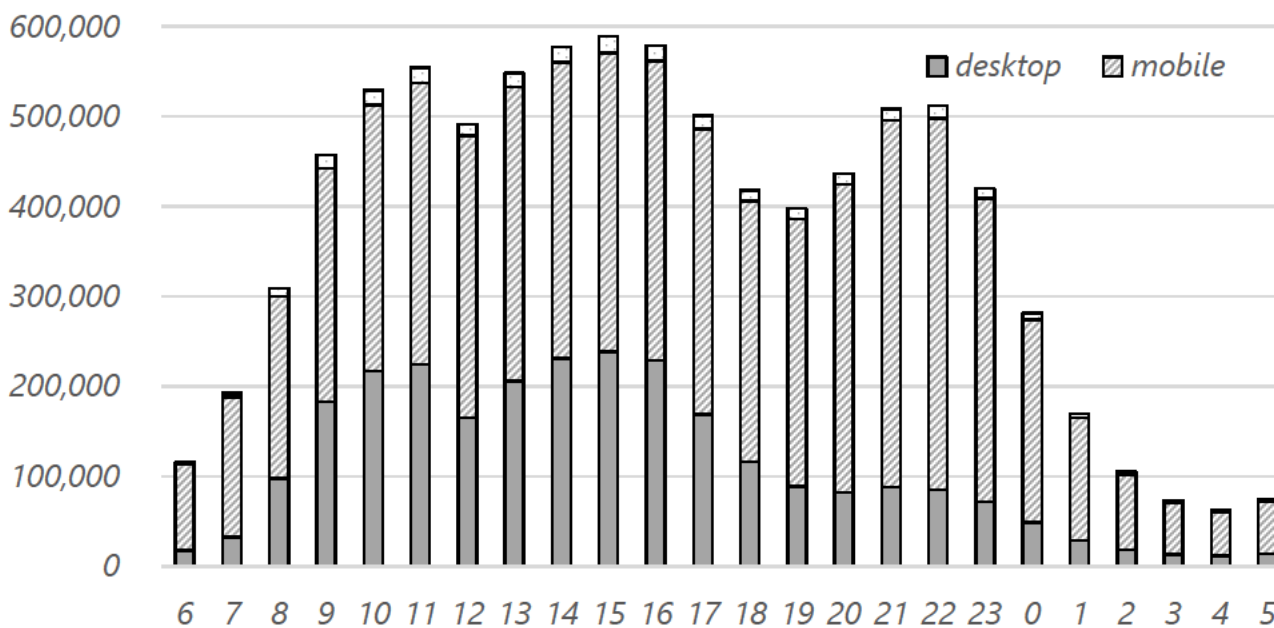


図 2. 2019～2021 年度の利用端末別の時間帯ごとのアクセス数

